

ぐう数・き数の ぶどう算 ①

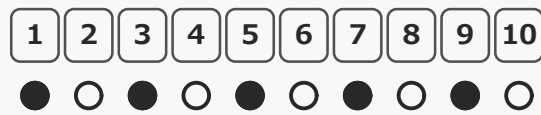
小5/数を ○と ●に かえて きまりを 見つけよう

なまえ _____

ひづけ _____

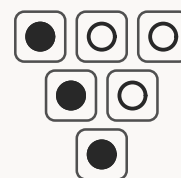
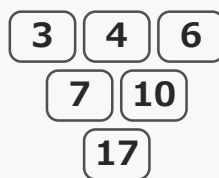
- と ●は、数が ぐう数か き数かを あらわす しるし。ぐう数は 2で わりきれる 数(0, 2, 4, 6...)で ○(ふちだけの まる)。き数は 2で わると 1 あまる 数(1, 3, 5, 7...)で ●(ぬりつぶした まる)。書くときも 同じ。
- ぶどう算は、となりあう 2つの 数を たして、2つの 間の 下の ますに 書く。
- ①は、左の 数の ぶどうが できあがって いる。右の ○と ●の ぶどうの □に、左の 数の ぶどうと 同じ 位置(上から 同じ だん目で、左から 同じ ばん目)の 数が ぐう数なら ○、き数なら ● を 書こう。(下の れいを見よう)
- ②は、①が 終わってから、きまり表の 行を 1つずつ うめる。たとえば ●と ○の 行(4行目)なら、①の ○●の ぶどうの 中から ●と ○が となりあっている ところを 1つ さがし(1~3行目も、その 行の 左の 2つの しるしが となりあう ところを さがす)、その 2つの 間の 下の ○か ● を、その 行の 一番 右の □に 書く。①の (1)~(4)の どれを 見ても よい(どの ならびも ①に 出てくる)。(れいを見よう)

数の ならびと しるし(まよったら 見よう)



0も ぐう数。ぐう数と き数は 1つずつ ならぶ。

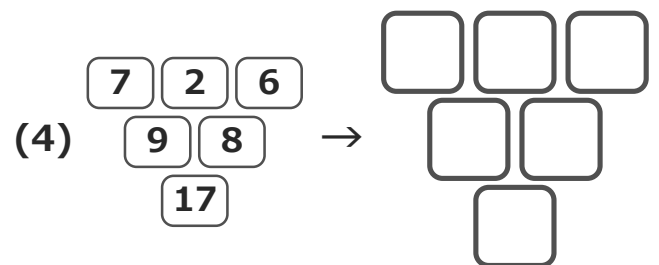
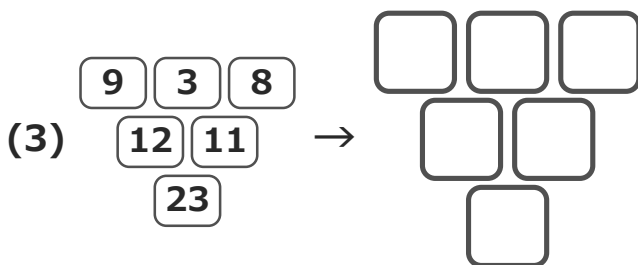
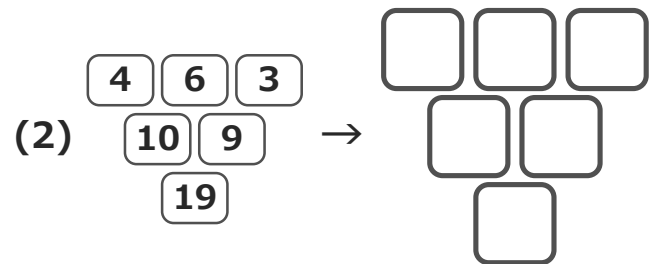
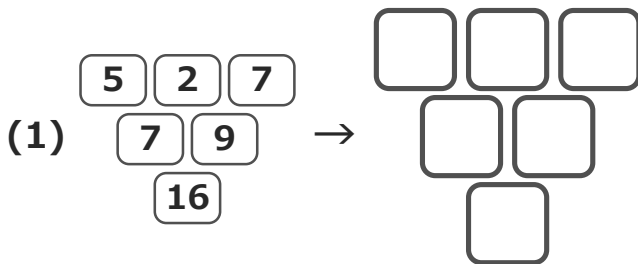
れい 数を ○と ●に かえる



3は き数 → ●
4は ぐう数 → ○
7は き数 → ●
10は ぐう数 → ○

のこりも 同じ。17は き数だから ●。

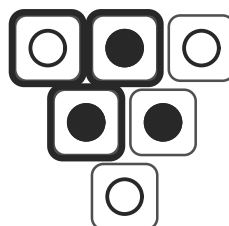
① 数の ぶどうを ○と ●の ぶどうに かえよう



② きまり表を 完成させよう(①の ○●の ぶどうを見る)

- + ○ = □
- + ● = □
- + ● = □
- + ○ = □

よみ方の れい



上の となりあう 2つは ○ と ●。
その 2つの 間の 下は ●。
→ ○と ●を たすと ●になる。
こんな ふうに ①の ぶどうから
4つの 行の こたえを 見つけよう。



ぐう数・き数の ぶどう算 ①【こたえ】

小5/数を ○と ●に かえて きまりを 見つけよう

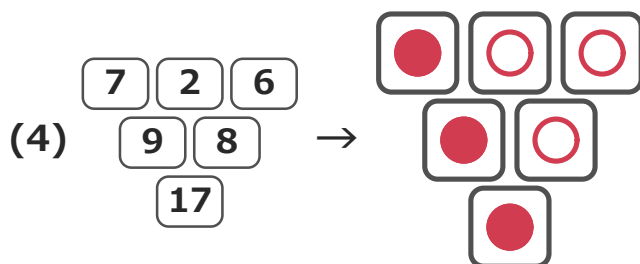
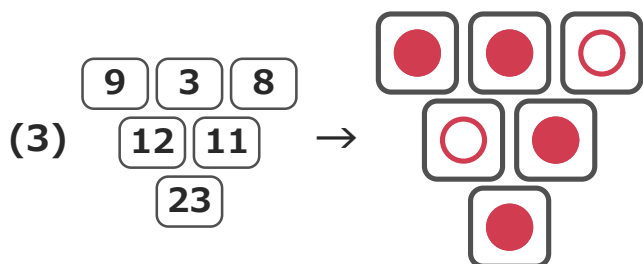
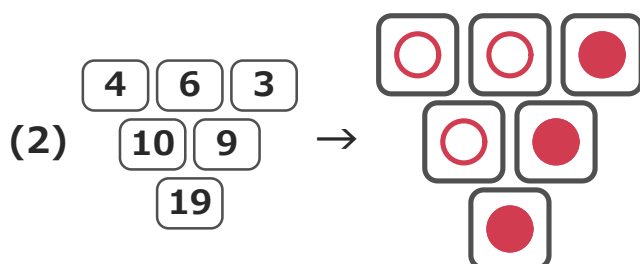
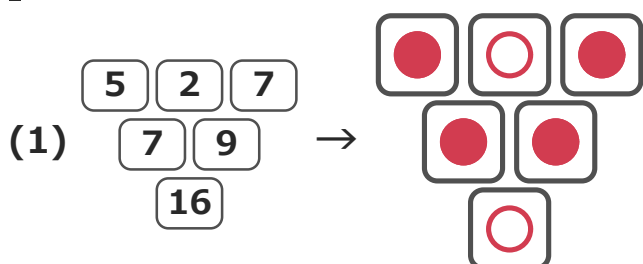
なまえ _____

ひづけ _____

こたえ(赤い ところが こたえ)

- ①は、数が ぐう数なら ○、き数なら ● に かえる。(1)の 上の だんは 5(き数)→ ●、2(ぐう数)→ ○、7(き数)→ ●。
- ①の ○●の ぶどうを 見ると、となりあう 2つが 同じ(○○か ●●)なら 下は ○、ちがう(○●か ●○)なら 下は ● になっている。
- ②の 表の こたえは、1行目 ○+○=○、2行目 ●+●=○、3行目 ○+●=●、4行目 ●+○=●。

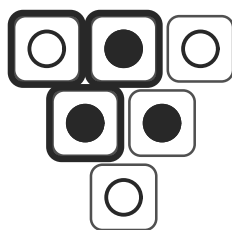
① 数の ぶどうを ○と ●の ぶどうに かえよう



② きまり表を 完成させよう(①の ○●の ぶどうを 見る)

- + ○ = ○
- + ● = ○
- + ● = ●
- + ○ = ●

よみ方の れい



上の となりあう 2つは ○ と ●。
その 2つの 間の 下は ●。
→ ○と ●を たすと ● になる。
こんな ふうに ①の ぶどうから
4つの 行の こたえを 見つけよう。

おうちの方へ

数の 大きさを 計算し直さなくても、ぐう数か き数だけで 答えの ぐう・きが 決まることに 気づく 1枚です。表を 暗記させるより、①の ○●を 見て 子どもが 自分で 見つけたかを ほめてください。
言いかえの 例: き数は『2つずつ 組に すると 1こ あまる 数』。き数+き数は あまりの 1こ と 1こが 組に なって ぐう数、ぐう数+き数は あまりの 1こが のこって き数。(学校では ぐう数・き数を 偶数・奇数と 書きます。)

②で 表が 書けない ときは、①の どれか 1つの ぶどうを 指さして『この 2つ(上) と この 1つ(下) は ○と ●のうち どれ?』と 聞いてください。